

「新しい地域防災計画」 について



質問者
石内 浩 議員

地域防災（自主防災）

は、その認識があっても何から手をつけてよいのか、わからないのが現状と思われる。町は、昨年6ヶ所での町民懇談会を開催し本年3月を地域防災計画の策定目標としているので、次の点について伺いたい。

- ① 「地域の特性を踏まえた防災計画」、そのために「開かれた計画づくりの推進」とあったが、各自治会などとの連携を含めた展開方法は。
- ② 河川改修・土石流対策・道路を始めとしたライフライン整備・避難所指定の各地域集会所施設の耐震性・民家の耐震補強など自治体主導の対策は。

- ③ 庁内体制・近隣市町村・各種団体・企業・商店との具体的連携策は。

A

施設整備や啓発活動の充実

回答（町長）

① 昨年の町民懇談会で、「防災会議に多くの自主防災会の参加を！」との意見から、「防災会議」委員を10名増やした。また、「自らを守る」を基本に、自主防災会の取り組み強化と一層の施設整備や啓発活動の役割を、地域と一体とな

- り推進していく。
- ② 防災上の砂防・治山事業の推進など、災害に強い河川となるよう県へ要望していくと共に、道路改修や上・下水道の計画的改修を進める。一部の集会所施設は建築基準に

平成25年度一般会計予算案 と定住化策促進について



質問者
菅谷 一夫 議員

適合していないため、建替時に避難所の機能を備えていきたい。また、耐震性のない町内の建築物は32%あるので、改修工事費補助金を予算計上した。

2月15日、平成25年度一般会計当初予算案概要が発表されましたので、町是でもある「まちづくり定住化施策」の促進について、お伺い致します。

- ① 寄地区は、幼児・学齢期等の若年層が著しく減少し、これに伴い高齢者層の比率が増大し、過疎化現象が顕著になっている様に思われます。地域住民のパワーの

結果や観光客誘導の資源創り、幼児・学齢期者の子育て教育等について、お考えをお伺い致します。

- ② 新松田駅周辺の「まちづくり」事業である南口の基盤整備と北口の整備構想等は、26年度竣工の酒匂川2号橋の開通で定住化施策に影響があるので、対応策をお考えになられておられますか。

A

寄地区の振興策を図る

回答（町長・教育長）

① 寄地区の現在の人口は2279人で、この18年間の減少率は18%、年齢階層別では14歳未満145人、64歳までが1457人、65歳以上は677人で高齢化率は29.6%。自治会別では中山の50%に続き菅沼、湯の沢となっている。

地域活性化の原点は、



H26年開通予定の酒匂川2号橋（開成駅付近）

住民パワーの結集と共に、カリスマ性のあるリーダーが不可欠と考える。一方、定住化策等でバス交通を確保し生活環境を維持していく。また、人口減の歯止め対策として、農業構造改善事業などで観光農業への転換を図ってきたが、今後さらに観光客の誘致を強力に推進する。

- ② 次世代を担う子どもたちの教育についても、少子化の影響を考慮し特色ある学校づくりを目指して、課題に取り組んでいく。
- ② 酒匂川2号橋の交通の流れは、本町への影響は少ないと考える。